



環境対応 ラックオプション

2026.3.1(6.0 版)

DNSHD8Eシリーズ (Rev. A以降)

取扱説明書

ご使用の前に必ずお読み下さい。

製品仕様はHP上の仕様書を参照下さい。

安全にご使用いただくために(使用上の一般的注意事項)

指定用途以外には使わないで下さい！

100/200G メディアコンバータを最大4台まで実装し、一括で電源供給を行うための収納シャーシです。それ以外の用途にはお使いにならないで下さい。また仕様の項目を超えない範囲でお使い下さい。

分解しないで下さい！

取付けてあるカバー類は取外さないで下さい。分解された場合は一切の保証をいたしません。

製品は大事に扱って下さい！

誤って落としたり、ぶつけたりしますと製品の性能を低下させますので十分にご注意下さい。

異常が起きたら直ちに使用中止！

使用上、煙・臭い・発火などの異常に気がついた場合には、直ちに使用をやめ点検・修理に出して下さい。

条例に従って産業廃棄物として廃棄して下さい！

本装置を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って産業廃棄物として処理して下さい。

電波障害自主規制について！

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本製品のご使用にあたって！

本製品は、人命に関わる場合(医療、航空、原子力、軍事等)や高度な安全性や信頼性を必要とするシステムへの使用または機器組み込みでの使用を意図した設計および製造は行っておりません。

従いまして、これらのシステムへの使用や機器に組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的、間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任におきまして、このようなシステムへの使用または機器に組み込んで使用する場合には、使用環境や条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなどご注意ください。

大電株式会社

警告

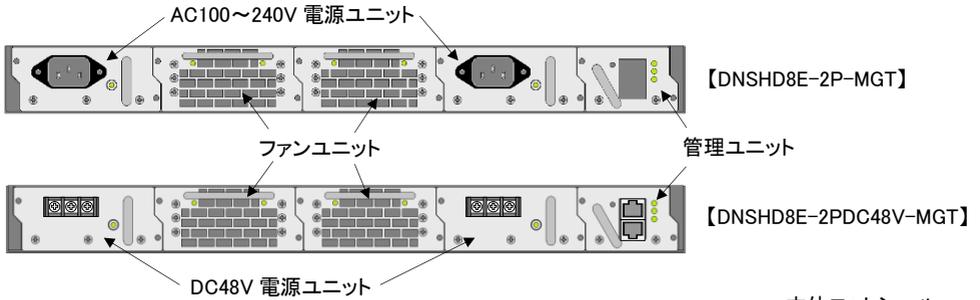
- ・指定の電圧以外で使用しないで下さい。
指定電圧以外で使用すると火災や感電、故障の原因となります。
- ・AC電源プラグはACコンセントに確実に差し込んで下さい。
電源プラグの刃に金属などが触れると火災や感電、故障の原因となります。
- ・DC電源接続はブレーカをOFFにしてから行って下さい。
電源の短絡事故や火災、感電を招く恐れがあります。
- ・DC電源の接続は相応の訓練を受けた人が行って下さい。
電源の短絡事故や火災、感電を招く恐れがあります。
- ・アースを必ず接続して下さい。
アースを接続しないと感電の原因となります。
- ・水につけたり、水をかけたりしないで下さい。
漏電による火災や感電、故障の原因となります。
- ・浴室や加湿器のそばなど湿度の高い所では使用しないで下さい。
火災や感電、故障の原因となります。
- ・静電気注意！
本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。静電気による故障・誤動作を防ぐため、製品に触れる前には除電を行って下さい。

注意

- ・電源プラグを抜くときは、電源プラグを持って抜いて下さい。
電源コードを引っ張るとコードの損傷が発生し火災や感電の原因となることがあります。
- ・濡れた手で製品に触れないで下さい。
故障や感電の原因となることがあります。
- ・アース線の接続及び取外す時は、AC電源は電源プラグをコンセントから抜き、DC電源はブレーカーを切ってから行って下さい。
- ・本機をストーブなどの熱器具のそばに置かないで下さい。
ケーブルの被覆が溶けて火災や感電の原因となることがあります。
- ・ファンが回転しない状態では使用しないで下さい。
内部の温度が上がりが故障の原因となることがあります。
- ・本機を直射日光の当たる所や温度の高い所で使用しないで下さい。
内部の温度が上がりが火災や故障の原因となることがあります。
- ・放熱スリットや隙間に針金や金属物などの異物を入れないで下さい。
内部に触れ感電やけがの原因となることがあります。
- ・放熱スリットを塞がないで下さい。
スリットを塞ぐと内部に熱がこもって故障の原因となります。
- ・本機をほこりの多い所や油煙のあたる所で使用しないで下さい。
火災や故障の原因となることがあります。
- ・本機を不安定な場所または振動や衝撃の多い場所に置かないで下さい。
落下などにより、けがや故障の原因となることがあります。
- ・本機は底面が下になるように設置して下さい。
落下によるけがや故障の原因となることがあります。

1. 装置各部の説明／付属品

本 体



本体ロットシール

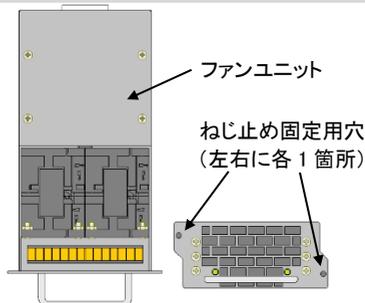


付 属 品

(ファンユニット)・・・

1台に対してファンユニット2台が標準で実装されています。

※ファンユニットが両方とも故障した状態で使用すると本体の内部温度が上昇し、本体及び実装したメディアコンバータを故障させる恐れがあります。
新しいファンユニットに交換してご使用下さい。



(AC 電源ユニット)・・・

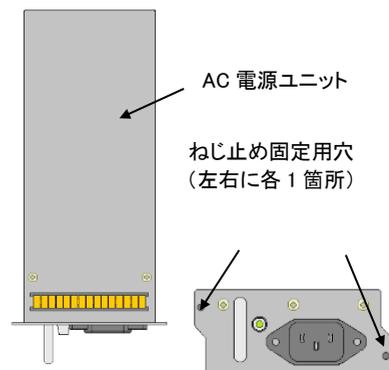
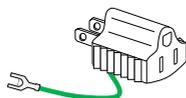
1台に対して AC 電源ユニット2台が装着されています。

(AC ケーブル)・・・

AC 電源ユニット1台に対して1本付属しています。
※AC ケーブルは AC100V 専用です。AC200V を使用する場合は AC200V 対応のものを別途ご準備下さい。

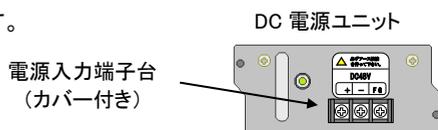
(変換アダプタ)・・・

AC 電源ユニット1台に対して1個付属しています。



(DC48V 電源ユニット)・・・

1台に対して DC 電源ユニット2台が装着されています。



(管理ユニット)・・・

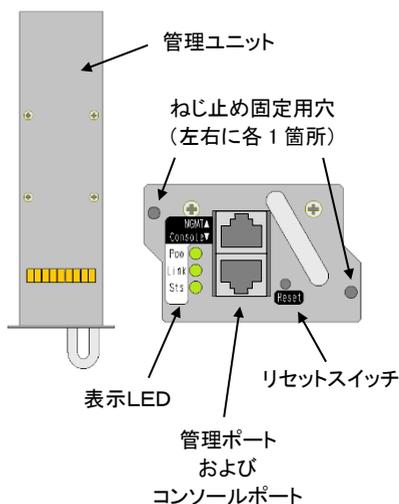
1台に対して管理ユニット1台が標準で実装されています。

〔表示LED〕

Pow	電源供給時に点灯(緑)
Link	リンク確立時に点灯/ データ送受信時に点滅(緑)
Sts	ROMアクセス時に点灯(緑)

〔リセットスイッチ〕

本製品を再起動するためのスイッチです。
先の細い棒などでリセットスイッチを押すと本製品はハードウェア的にリセットされます。



〔管理ポート〕

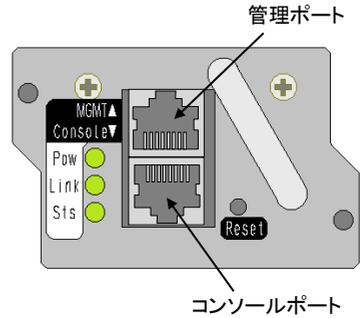
本製品をイーサネット経由で管理するためのポートです。

本製品の背面上段にあり、100BASE-TX または 10BASE-T で使用可能です。

〔コンソールポート〕

本製品を RS-232C 経由で管理するためのポートです。

本製品の背面下段にあり、ターミナル エミュレーション ソフトウェアを実行するコンピュータに接続することで使用可能です。



(前面ブラインド)・・・本機1台に対して前面ブラインド8個が取り付けられています。

メディアコンバータを実装する際には取外しますが、メディアコンバータを取外した際に必要となりますので大切に保管して下さい。

(背面ブラインド)・・・本機1台に対して背面ブラインド1個付属しています。

電源ユニットやファンユニットを取外してご使用になる場合に必要となりますので大切に保管して下さい。

(マウントブラケット)・・・本機1台に対してマウントブラケット2個付属しています。

19インチラックに本機を取り付ける際に、ご使用下さい。

オプション 販売品

ファンユニット: 付属のファンユニットが故障した際にご購入下さい。

(品名: DNSHD8EFAN)

電源ユニット: 付属の電源ユニットが故障した場合にご購入下さい。

(品名: DNSHD8EPW・・・AC100-240V用)

(品名: DNSHD8EDC48V・・・DC48V用)

管理ユニット: DNSHD8E本体の電源状態やファンの動作状態、実装したメディアコンバータの状態等を監視端末で管理できます。

(品名: DNSHD8EMGT)

別 売 品

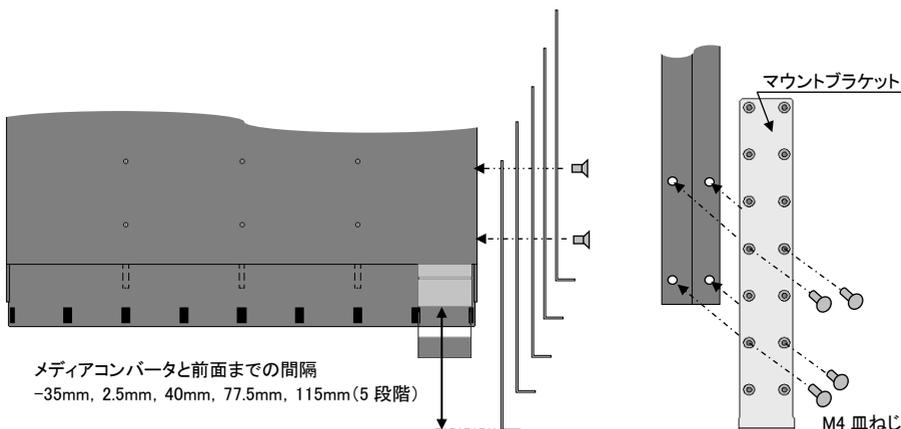
下記部材については、添付していませんので別にご準備下さい。

- ・ラック固定用ねじ : 本装置を 19 インチラックに固定する場合には、M5 サイズのねじを使用して下さい。
- ・ツイストペアケーブル(管理ユニット用) : TIA/EIA-568-A に適合するカテゴリ-5以上のUTPケーブルに RJ-45 モジュラーコネクタを結線したものをご使用下さい。
※UTPケーブルは 100m 以下の長さでご使用下さい。
- ・RS-232C ケーブル(シリアル用) : 専用の RJ-45/D-Sub9 ピン(メス)変換の RS-232C ケーブルをご使用下さい。なお、ケーブルは Cisco 社製 SW-HUB 用のシリアルケーブルが使用可能です。

2. 本体の設置

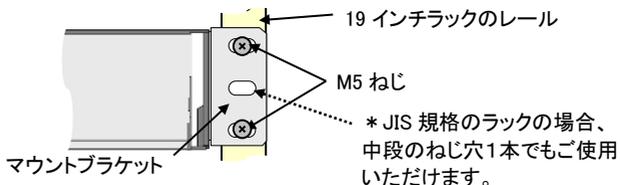
手順①: マウントブラケットの位置調整

本機は、マウントブラケットの取付け位置を 37.5mm 間隔で最大 115mm スライドすることができます。19 インチラックの形状に応じてメディアコンバータに接続するケーブルの配線スペースを確保できる位置にマウントブラケットを取付けて下さい。



手順②: 19 インチラックへの取付け

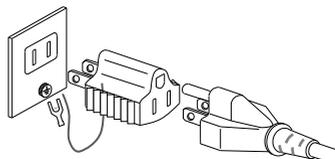
本機のマウントブラケットを 19 インチラックのレールに取付けて下さい (M5 ねじ 4 本が必要)。



手順③: アース線の接続

【AC100V電源の場合】

接地極なしのコンセントを使用する場合は、変換プラグの口出し線を接地端子に接続して下さい。



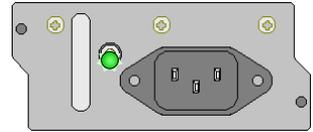
【DC48V 電源の場合】

アース線に圧着端子を取付けて、電源ユニットの端子台に接続して下さい。
(端子台への接続方法は電源の接続の項を参照下さい)

手順④: 電源の接続

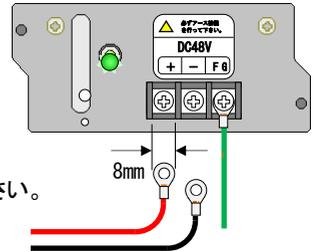
【AC100V電源の場合】

電源ユニットの電源プラグを AC コンセントに差し込んで下さい。電源ユニットの表示 LED が緑色に点灯することを確認して下さい。



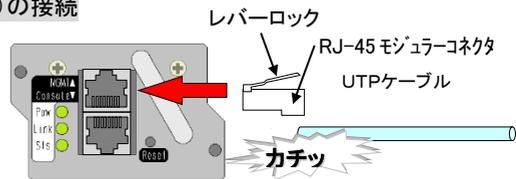
【DC 電源の場合】

- ①DC電源ラインの回路ブレーカを遮断し電気が流れない状態にして下さい。
- ②電源コードに圧着端子を取付けてから、端子台 (M4 ねじ) に取付けて下さい。(推奨締付トルク: 1.8N・m)
- ③端子台カバーを取り付けた後、電源を投入して下さい。電源ユニットの表示 LED が緑色に点灯することを確認して下さい。

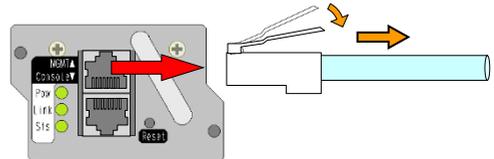


手順⑤: 管理ユニットのUTPケーブル(管理ポート)の接続

- ①RJ-45モジュラーコネクタを取付けた UTPケーブルを、本体の管理ポートインターフェイスに接続して下さい。
- ※モジュラープラグのレバーロックが「カチッ」と音がするまで確実に差し込んで下さい。



※モジュラーコネクタを取外す際には、レバーロック部をモジュラーコネクタに押し当てた状態のままコネクタを引抜いて下さい。ロックされた状態で無理に引抜くと、モジュラーコネクタやメディアコンバータ本体を破損する恐れがあります。



※UTPケーブルは誤動作・故障する場合がありますので、コンソールポートへは差し込まないで下さい。

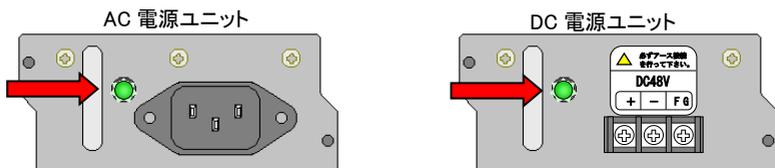
手順⑥: 管理ユニットのRS-232Cケーブル(シリアル用)の接続

- ①専用の RJ-45/D-Sub9 ピン(メス)変換の RS-232C ケーブルをご使用下さい。
 - ②RJ-45 モジュラーコネクタ側を本体のコンソールポートに接続して下さい。
- ※抜差しの要領については UTP ケーブルと同様です。
- ※RS-232C ケーブルは誤動作・故障する場合がありますので、管理ポートへは差し込まないで下さい。
- ③D-Sub9 ピン側をPC等の端末に接続して下さい。
- ※端末機 D-Sub9 ピン(オス)以外の場合は別途変換コネクタを用意して下さい。
- ※端末機については、VT100 をサポートした通信ソフトウェアが動作する PC を使用して下さい。
- ※通信ソフトウェアの設定については、取扱説明書(ソフトウェア)を参照下さい。

3. 接続状態の確認および注意

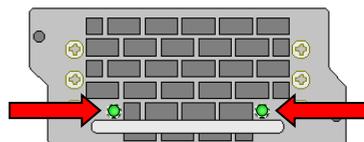
手順①: 電源ユニットの確認

電源ユニットをDNSHD8Eに実装して、DNSHD8Eの電源を入れた状態で表示 LED が実装状態に対応して緑色に点灯していることを確認して下さい。



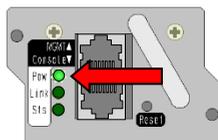
手順②: ファンユニットの確認

ファンユニットをDNSHD8Eに実装してDNSHD8Eの電源を入れた状態で表示 LED が緑色に点灯していることを確認して下さい。



手順③: 管理ユニットの確認

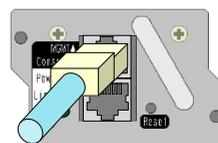
管理ユニットをDNSHD8Eに実装してDNSHD8Eの電源を入れた状態で表示 LED の「Pow」が緑色に点灯していることを確認して下さい。



手順④: 管理ユニットの UTP ケーブルの確認

UTP ケーブルを 10/100BASE-T 対応の機器 (パソコンやスイッチングハブ等) に接続し、表示 LED の「Link」が点灯 (もしくは点滅) することを確認して下さい。

※UTP を介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。



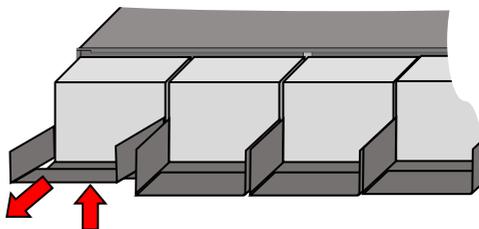
手順⑤: 管理ユニットの設定時の注意

- ①本装置はシリアル接続もしくは UTP ケーブルを介しての Telnet 接続によって様々な機能を CLI (Command Line Interface) で設定をすることができます。詳細は、取扱説明書 (ソフトウェア) を参照して下さい。
- ②管理ポート対向側の機器が固定設定 (速度・モード) の場合には、必ず本装置も対向機器の速度・モードと同じになるよう固定設定にして下さい。また、逆の場合も同様です。
※設定が異なる場合には、リンクアップしなかったり、設定とは異なる速度・モードでリンクアップしたりする可能性があります。

4. メディアコンバータの取付け

手順①: ブラインドの取外し

手前にあるバーを引き上げて、ブラインドを取外して下さい。取外したブラインドは大切に保管し、メディアコンバータを実装しないスロットには必ずブラインドを装着して下さい(ファンによる冷却効果が低減し、本機及びメディアコンバータの機能低下を招く可能性があります)。

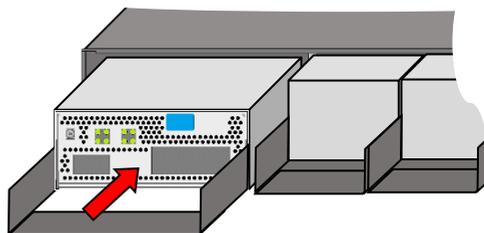


手順②: メディアコンバータの取付け

ブラインドを取外したスロット部にメディアコンバータを左右に寄らないようにまっすぐにして、ゆっくりと奥まで差し込んで下さい。

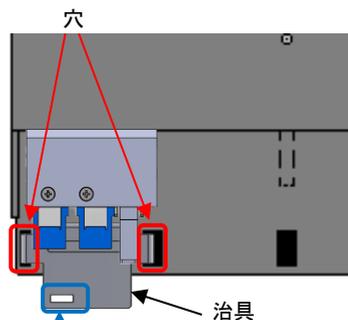
本機の電源が投入されている場合には、メディアコンバータの電源表示LEDが点灯することを確認して下さい(メディアコンバータの電源表示LEDについては、メディアコンバータの取扱説明書を参照下さい)。

※DNSBIDIにはLEDは付いていません。



[DNS10G/DNSBIDI に関して]

DNS10GとDNSBIDIに関してはロック機構となるバーが付いていないため、製品取り付け後、各製品に同梱されている治具を本機の穴に嵌合させて下さい。



治具は穴が開いている側が前面になるように設置して下さい。

5. メディアコンバータの取外し

手順①: 配線の取外し

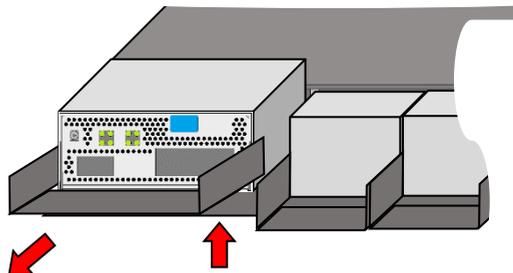
メディアコンバータに配線しているケーブルのコネクタを取外して下さい。

手順②: メディアコンバータの取外し

[DN100GE に関して]

メディアコンバータの手前にあるバーを引き上げて、ゆっくりと引抜いて下さい。

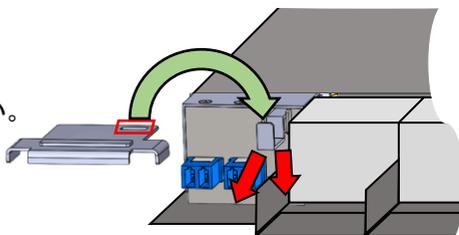
※バーを引き上げずに無理に引抜くと、メディアコンバータのケースを破損する恐れがありますのでご注意下さい。



[DNS10G/DNSBIDI に関して]

各製品に同梱されている治具の穴を製品の取手部に引っ掛けて、取手部を押し下げながらゆっくりと引抜いて下さい。

※取手部を下げずに引抜くと、製品のケースを破損する恐れがありますのでご注意下さい。

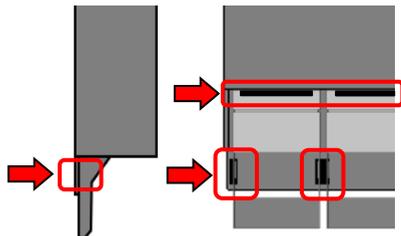


手順③: ブラインドの取付け

メディアコンバータを取外した箇所にはブラインドを装着して下さい。

※MC ブラインドは黒色シールが見えなくなるまで、差し込まないで下さい。

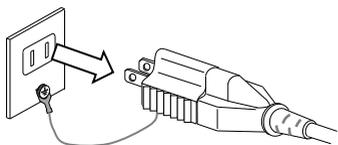
※ブラインドのバーにあるキーが、本体の穴に嵌合していることを確認して下さい。



6. 電源ユニットの取外し

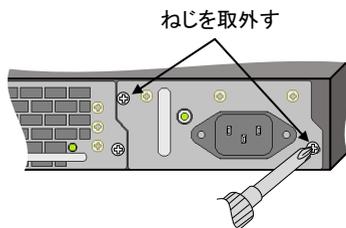
手順①: 電源の開放

交換する電源ユニットの電源をオフ(AC 電源は電源プラグをコンセントから抜き、DC 電源はブレーカを切る)にしてから、アース線を取外して下さい。



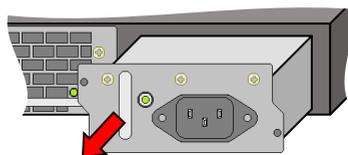
手順②: 固定ねじの取外し

電源ユニットを取付けている M3 ねじ(2箇所)をプラスドライバーで緩めねじを取外して下さい。



手順③: 電源ユニットの取外し

ハンドルを持って電源ユニットを引抜いて下さい。
※電源コードを引っ張らないで下さい。



手順④: 背面ブラインドの取付け

電源二重化の状態から、一方の電源ユニットを取外してもう一方の電源ユニットのみで使用される場合には、必ず背面ブラインドを装着して下さい。背面ブラインドを装着せずに使用するとファンによる冷却効果が低減し、本機及びメディアコンバータの機能低下を招く可能性があります。

7. 電源ユニットの取付け

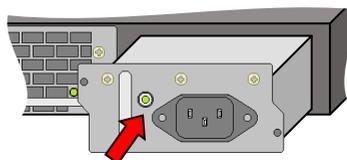
手順①: 背面ブラインドの取外し

電源ユニットを二重化してご使用される場合には、本機背面の中央部の背面ブラインド部のねじ(2箇所)を緩めて背面ブラインドを取外して下さい。

取外した背面ブラインドは大切に保管し、電源ユニットおよびファンユニットを取外した際には必ず背面ブラインドを装着して下さい。(ファンによる冷却効果が低減し、本機及びメディアコンバータの機能低下を招く可能性があります)

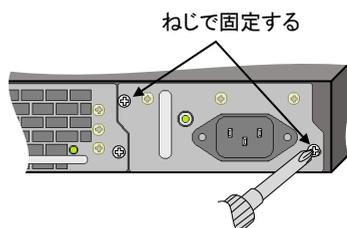
手順②: 電源ユニットの搭載

電源ユニットを左右に寄らないようにまっすぐにして、ゆっくりと奥に突きあたるまで差し込んで下さい。



手順③: 電源ユニットの固定

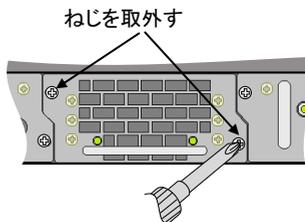
プラスドライバーで M3 ねじ(2 箇所)を締め、電源ユニットを固定して下さい。



8. ファンユニットの取外し

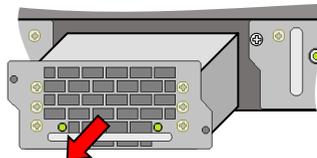
手順①: 固定ねじの取外し

ファンユニットを取付けている M3 ねじ(2箇所)をプラスドライバーで緩めねじを取外して下さい。



手順②: ファンユニットの取外し

ハンドルを持ってファンユニットを引抜いて下さい。



手順③: 背面ブラインドの取付け

ファン二重化の状態から、一方のファンユニットを取外してもう一方のファンユニットのみで使用される場合には、必ず背面ブラインドを装着して下さい。背面ブラインドを装着せずに使用するとファンによる冷却効果が低減し、本機及びメディアコンバータの機能低下を招く可能性があります。

9. ファンユニットの取付け

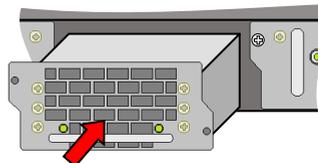
手順①: 背面ブラインドの取外し

ファンユニットを二重化してご使用される場合には、本機背面の中央部の背面ブラインド部のねじ(2箇所)を緩めて背面ブラインドを取外して下さい。

取外した背面ブラインドは大切に保管し、ファンユニットおよび電源ユニットを取外した際には必ず背面ブラインドを装着して下さい。(ファンによる冷却効果が低減し、本機及びメディアコンバータの機能低下を招く可能性があります)

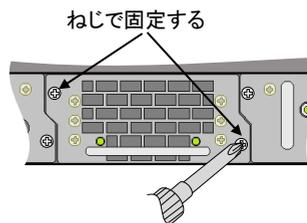
手順②: ファンユニットの搭載

ファンユニットを左右に寄らないようにまっすぐにして、ゆっくりと奥に突きあたるまで差し込んで下さい。



手順③: 固定ねじの取付け

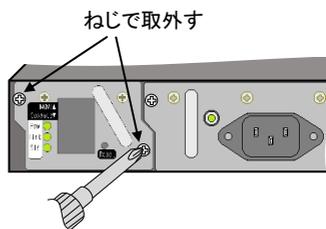
プラスドライバーでM3ねじ(2箇所)を締め、ファンユニットを固定して下さい。



10. 管理ユニットの交換

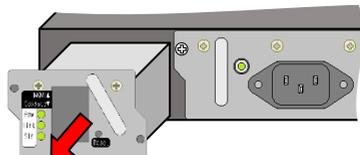
手順①: 固定ねじの取外し

管理ユニットを取付けている M3 ねじ(2箇所)をプラスドライバーで緩めねじを取外して下さい。



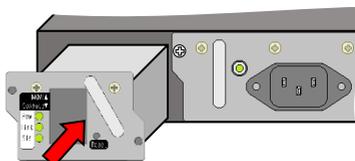
手順②: 管理ユニットの取外し

ハンドルを持って管理ユニットを引抜いて下さい。



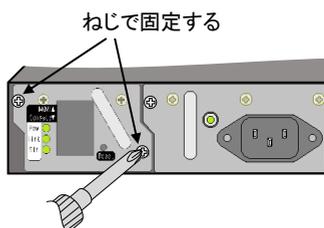
手順③: 管理ユニットの搭載

管理ユニットを左右に寄らないようにまっすぐにして、ゆっくりと奥に突きあたるまで差し込んで下さい。



手順④: 固定ねじの取付け

プラスドライバーで M3 ねじ(2箇所)を締め、管理ユニットを固定して下さい。



11. こんな時は

故障かなと思った場合には修理を依頼する前に確かめて下さい。

電源表示LEDが点灯しない

確認①: 電源ユニットはきちんと奥まで実装されていますか？

確認②: AC 電源の場合、電源プラグは根元まできちんとコンセントに接続されていますか？

確認③: DC 電源の場合、極性は間違っていますか？

誤って逆極性で接続した場合に備えて保護回路を内蔵していますが、間違った極性で電圧を印加し続けると故障する可能性があります。速やかに正しい極性に接続し直して下さい。

確認④: 電源電圧は仕様範囲内ですか？

入力電圧が低すぎる場合は出力をOFFにする機能を内蔵していますので、正しい電源電圧で再接続して下さい。

入力電圧が高すぎた場合、保護回路を内蔵しておりませんので故障の危険があります。ご使用を控えて点検・修理に出して下さい。

ファンが回転していない

確認①: 本機の電源表示 LED は点灯していますか？

確認②: ファンユニットはきちんと奥まで実装されていますか？

メディアコンバータに電源が供給されていない

確認①: 本機の電源表示 LED は点灯していますか？

確認②: メディアコンバータはきちんと奥まで実装されていますか？

管理ポート用 POW LED が点灯しない

確認①: 管理ユニットは本体にきちんと根元まで接続されていますか？

確認②: 本体の電源は入っていますか？

管理ポート用 Link LED が点灯しない

確認①: モジュラーコネクタは確実にロックされていますか？

確認②: 接続相手機器の電源は入っていますか？

確認③: 接続相手の機器の設定と本装置の設定はあっていますか？

確認④: UTP ケーブルが断線や異常損失を起していませんか？

代わりの UTP ケーブルで接続してみてください。

管理ポートが通信できない

確認①: 管理ポート設定が無効になっていませんか？

コンソールポートにて「portconfig -a」コマンドでポートステータスを確認して下さい。

確認②: 管理ポートの IP アドレス、Subnet マスクの設定は正しいですか？

コンソールポートにて「ipconfig -a」コマンドでアドレスを確認して下さい。

コンソールポートが接続できない

確認①: ケーブルや変換コネクタは正しく接続されていますか？

確認②: 通信ソフトウェアの設定内容は、本装置に合っていますか？

